

ファイザープログラム
～心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援
2017 年度

選考結果のご報告

2017 年 12 月

ファイザー株式会社



Working together for a healthier world™
より健康な世界の実現のために

— 目 次 —

1. プログラム紹介	1
2. 2017 年度新規助成 応募状況	2
3. 2017 年度助成対象プロジェクト一覧	4
4. 新規助成の選考経過と助成の特徴	6
5. 新規助成対象プロジェクトの概要と選考委員会推薦理由	8
6. 継続助成の選考経過と助成の特徴	12
7. 継続助成対象プロジェクトの概要と選考委員会推薦理由	14

プログラム紹介

ファイザープログラム～心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援は、ヘルスケアの視点を重視したより良い社会への寄与を目的として、心とからだのヘルスケアの分野で活躍が期待される市民活動・市民研究を応援する助成プログラムです。

第17回となる本年度は、新規助成として全国から96件のご応募を頂き、そのうち7件（助成総額1,500万円）が、また、継続助成として7件（助成総額1,500万円）が、それぞれの選考委員会による厳正なる選考の結果、助成対象プロジェクトとして選ばれました。

■ プログラム創設の目的

- (1) ヘルスケアの領域で今後一層の活躍が見込まれる市民活動を発掘し、その活動を後押しすること。
- (2) これからの社会の担い手として重要な役割が期待される市民活動自体の社会的認知を高めること。

■ プログラムの特徴

- (1) ヘルスケアを広く捉え、本業（医薬品の開発と提供）だけでは十分に満たすことのできないヘルスケアの分野で活動する市民団体を支援対象としていること。
- (2) 政府や自治体などの公的機関からのサービスや社会資源が十分に整っていない分野における市民活動とともに、市民研究も重点的に支援していること。
- (3) 団体としての過去の実績ではなく、その団体が取り組もうとしているプロジェクトの獨創性・試行性に評価の重点を置いていること。
- (4) 単年だけではなく、最長3年間の継続した支援も行なっていること。
- (5) プロジェクトに携わる人の人件費や、事務所家賃・光熱費などの事務局経費も前向きに助成すること。
- (6) 中間時点でのインタビュー実施によるフォローアップを行なっていること。
- (7) 市民活動・市民研究の社会的認知の向上を目的とした広報活動も重視していること。

■ 助成対象

「中堅世代」の人々（主に30・40・50歳代）の心とからだのヘルスケアに関する課題に取り組む市民活動および市民研究。

■ 選考委員会

《新規助成》

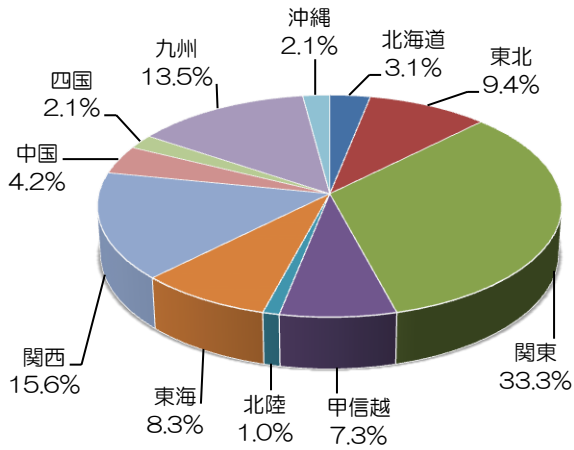
委員長	稲沢 公一	東洋大学 ライフデザイン学部 教授
委員	井ノ上美津恵	認定特定非営利活動法人浜松 NPO ネットワークセンター 代表理事
委員	川島 ゆり子	花園大学 社会福祉学部 教授
委員	滝脇 憲	特定非営利活動法人自立支援センターふるさとの会 常務理事／ 特定非営利活動法人すまい・まちづくり支援機構 理事
委員	西村 ユミ	首都大学東京 健康福祉学部／人間健康科学研究科 教授
委員	豊沢 泰人	ファイザー株式会社 執行役員 経営政策管理本部長

《継続助成》

委員長	稲沢 公一	東洋大学 ライフデザイン学部 教授
委員	井ノ上美津恵	認定特定非営利活動法人浜松 NPO ネットワークセンター 代表理事
委員	川島 ゆり子	花園大学 社会福祉学部 教授
委員	滝脇 憲	特定非営利活動法人自立支援センターふるさとの会 常務理事／ 特定非営利活動法人すまい・まちづくり支援機構 理事
委員	前野 一雄	独立行政法人地域医療機能推進機構 理事
委員	豊沢 泰人	ファイザー株式会社 執行役員 経営政策管理本部長

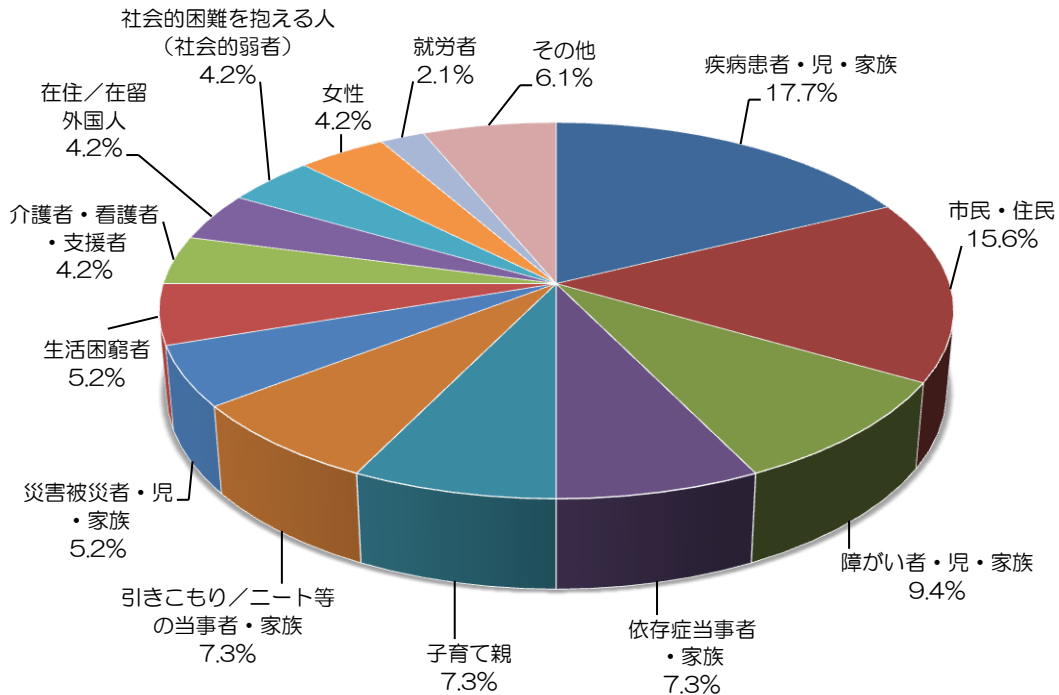
2017 年度新規助成 応募状況

1. 団体所在地



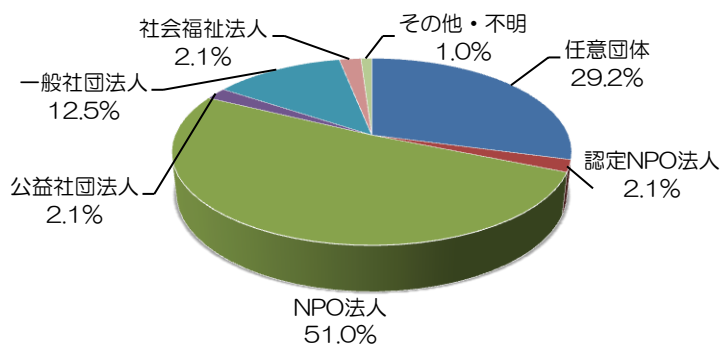
都道府県	団体数	都道府県	団体数
北海道	3	滋賀	0
青森	0	京都	2
岩手	3	大阪	6
宮城	1	兵庫	4
秋田	2	奈良	2
山形	1	和歌山	1
福島	2	鳥取	0
茨城	3	島根	0
栃木	0	岡山	2
群馬	0	広島	1
埼玉	3	山口	1
千葉	3	徳島	0
東京	20	香川	1
神奈川	3	愛媛	1
山梨	3	高知	0
長野	3	福岡	3
新潟	1	佐賀	1
富山	0	長崎	2
石川	0	熊本	1
福井	1	大分	1
静岡	1	宮崎	3
愛知	6	鹿児島	2
岐阜	0	沖縄	2
三重	1	合計	96
		合計	96

2. 支援対象の分類

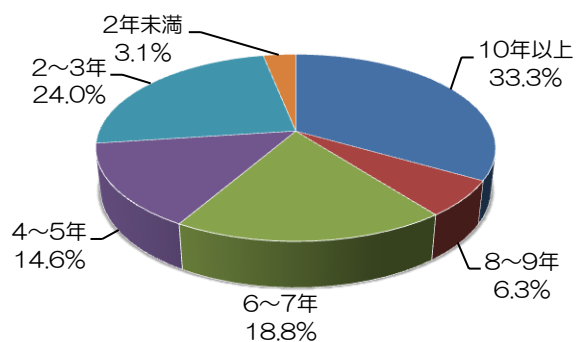


3. 組織形態

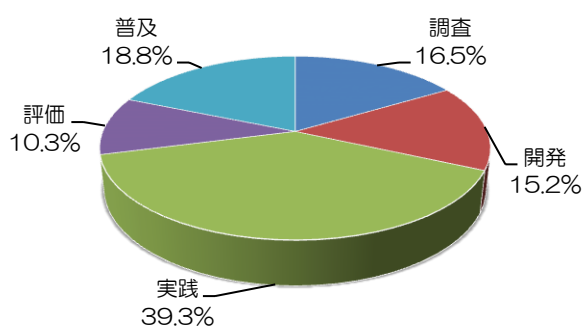
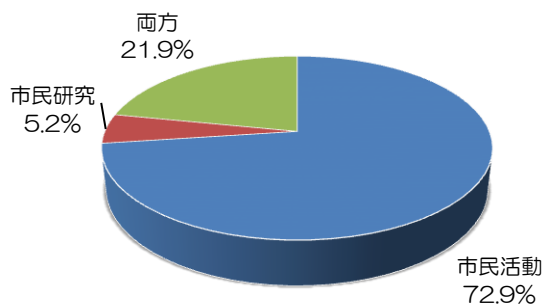
○法人種別



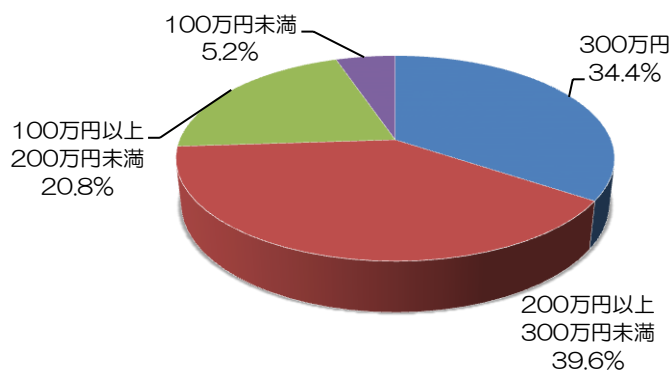
○活動年数



4. 応募種別



5. 応募金額



2017 年度助成対象プロジェクト一覧
ファイザープログラム～心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援
－新規助成（助成1年目）－

	活動	研究	プロジェクト名	団体名	代表者	所在地	助成額 (万円)
1	○		ひきこもり状態にある中堅世代への農業を通じた心とからだの健康自立支援事業	一般社団法人 SAVE TAKATA	佐々木信秋	岩手	230
2	○	○	中堅世代の加害者家族の支援モデルの構築	特定非営利活動法人 World Open Heart	阿部恭子	宮城	300
3	○		中堅世代のひきこもりの人々が気楽に集まるソーシャルカフェ～「35 カフェ」	特定非営利活動法人 光希屋（家）	ヨン・ロザリン	秋田	210
4	○	○	若者支援団体で活動する中堅支援者への支援	一般社団法人 若者協同実践全国 フォーラム（JYC フォーラム）	太田政男	東京	220
5	○		中高齢のろう者にこころのかがやきを	特定非営利活動法人 サイレント JAPAN	古海幸子	東京	150
6	○		中堅世代の病と生活困難者への自立に向けた寄り添い型支援	特定非営利活動法人 NPO ホットライン信州	村上晃	長野	170
7	○	○	孤立する難民と地域社会の市民をつなぐ関係構築プロジェクト	特定非営利活動法人 名古屋難民支援室	名嶋聰郎	愛知	220
助成総額〔7件・合計〕				1,500 万円			

（2017 年度の助成期間は、2018 年 1 月 1 日～12 月 31 日です）

2017 年度助成対象プロジェクト一覧
ファイザープログラム～心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援
－継続助成－

	活動	研究	プロジェクト名	団体名	代表者	所在地	助成額 (万円)
[助成 2 年目]							
1	○		生活困窮者を中心とした 健康改善及び中間的就労事業	特定非営利活動法人 仙台夜まわりグループ	今井誠二	宮城	190
2	○		埼玉県西部地区における 未就学時期の難病児子育て 応援プロジェクト	社会福祉法人 はなみずき会	都築公子	埼玉	253
3	○	○	デート DV の実態から中堅世代の 生きづらさと適切な支援方法を 明らかにするための研究	認定特定非営利活動法人 エンパワメントかながわ	阿部真紀	神奈川	168
4	○	○	DV 被害等による生きづらさを 抱えた女性のための居場所づくり 事業	認定特定非営利活動法人 女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ	正井禮子	兵庫	156
5	○		ひきこもり援農隊が沖縄コーヒー を創る	特定非営利活動法人 ウヤギー沖縄	近藤正隆	沖縄	300
[助成 3 年目]							
6	○		セクシュアル・マイノリティの 中堅世代困難層に向けた HIV 検査同行とサポート	クライシスサポート センター nolb	濱中洋平	東京	288
7	○		障がい児とその家族を支えるため の「家族の再生」プロジェクト	特定非営利活動法人 文化・福祉・人権サポート アエソン	政本和子	兵庫	145
助成総額 [7 件・合計]							1,500 万円

(2017 年度の助成期間は、2018 年 1 月 1 日～12 月 31 日です)

新規助成の選考経過と助成の特徴

新規助成 選考委員長 稲 沢 公 一

■はじめに

新規助成の選考委員長を務めさせていただいて3年目となりました。

今年度は、応募数が昨年度より9件減りました。とはいえ、予備選考で選出され、本審査対象となったのは53件（昨年度52件）とほぼ変わりませんでした。予備選考もまたそれ自体の基準で選考を行っておりますので、本審査対象の質は維持されたままであったといえます。

■選考経過と結果

新規助成の選考は、以下の日程および手続きにより実施されました。

- ・ 応募期間： 6月5日（月）～16日（金）
- ・ 応募総数： 96件（参考：昨年度105件）
- ・ 予備選考委員会： 7月5日（水）
- ・ 本審査対象： 53件（55.2%）
- ・ 書類選考： 7月7日（金）～24日（月）
- ・ 選考委員会： 7月30日（日）
- ・ 選考結果： 助成候補7件、補欠3件
- ・ 現地ヒアリング： 8月中旬～9月中旬
- ・ 選考委員長決裁会合： 10月13日（金）
- ・ 助成決定： 助成件数7件、助成総額1,500万円

*上記プロセスと並行して、ファイザー社内担当部署による、医薬品業界・社会規定および関係法規に基づくコンプライアンス確認作業を実施しました。

■書類選考・選考委員会

書類選考は、委員長を除く5名の選考委員によって行われますが、各人が全体の中から5件の「推薦」を、2件の「準推薦」をそれぞれに理由を付して選出します。

その結果、まず「推薦3・準推薦1」が1件、続いて「推薦2・準推薦1」が2件、「推薦2」が1件、「推薦1・準推薦1」が3件でした。そして、「推薦1」が13件ありましたので、合計20件が選考委員会で議論の対象となりました。

推薦数の多い上位から1件ずつ、5名の委員全員が一人ずつ、推薦する場合には評価できる点を、推薦しない場合には問題と思われる点をそれぞれに挙げていきます。上位はスムーズに決まっていますが、「推薦1」になると議論が重ねられ、ようやく絞り込まれても「助成候補」とするか「補欠」とするかの話合いが行われます。

その結果、助成候補7件、補欠3件が選出されましたが、事務局ヒアリングの結果、候補中の1件が本プログラムのテーマである「中堅世代」を対象としたものではなかったことから不採択となり、補欠から1件が繰り上がって最終結果となりました。

■助成プロジェクトの特徴

選考において採択されたプロジェクトの特徴としては、以下のようなことがあげられます。

①「全国型」

今回は、「若者支援団体で活動する中堅支援者への支援」（若者協同実践全国フォーラム）がすでに全国からの参加者を集める実践交流会を実施されています。また、「中高齢のろう者にこころのかがやきを」（サイレント JAPAN）もすでに、ろう博覧会を開催して、国内外から 2,000 名を超える参加者を集めており、手話による動画新聞の配信を目指しています。さらに、「中堅世代の加害者家族の支援モデルの構築」（World Open Heart）は、今のところ仙台・東京・大阪での活動にとどまっているようですが、まさに支援モデルが構築され、賛同者や協力者が増えていけば、全国各地での展開が期待できるのではないかと、その将来性が期待されます。

②「地域型」

「ひきこもり状態にある中堅世代への農業を通じた心とからだの健康自立支援事業」（SAVE TAKATA）は、岩手県陸前高田市のりんご農家と連携しながらひきこもりの方々の就労支援に取り組み、「中堅世代のひきこもりの人々が気楽に集まるソーシャルカフェ～『35 カフェ』」（光希屋（家））もまた、ひきこもりの方々の居場所として、秋田県大仙市に拠点となるカフェを構えています。

ただし、同じ地域型でも、「孤立する難民と地域社会の市民をつなぐ関係構築プロジェクト」（名古屋難民支援室）は、名古屋入国管理局の管轄である東海地方全域を、「中堅世代の病と生活困難者への自立に向けた寄り添い型支援」（NPO ホットライン信州）は、広大な長野県内全域をカバーしようとしており、ご苦労がしのべれます。

一つ興味深く思ったのは、地域密着度の高い SAVE TAKATA の中心スタッフや光希屋（家）の代表は、いずれもその地域にももとは縁もゆかりもない方だということでした。

③「当事者性」

今回、若者協同実践全国フォーラムのプロジェクトを見て、あらためて気づかされたのは、支援者もまた、活動に疲弊している当事者である、という捉え方をすることもどこかで必要になるということでした。また、加害者の側に位置付けられるけれども、そのご家族は、それによって偏見や差別の対象とされる当事者になるということも、World Open Heart のプロジェクトから教えられました。いずれも貴重で大切な捉え方だと思います。

■最後に

委員長任期は 3 年なので、これで終了となります。何事でもそうですが、過ぎてみると早いものです。この間、全国から応募され、予備選考を通過した 150 を超えるプロジェクトを拝見し、全国津々浦々で、考えたこともなかったような活動が地道に展開されていることを垣間見て、心底驚かされもしましたし、勇気づけていただきました。本当にありがとうございました。残念ながら採択に至らなかったプロジェクトを含め、今後ますますのご活躍を心より祈念しております。

新規助成対象プロジェクトの概要と選考委員会推薦理由

プロジェクト名：	ひきこもり状態にある中堅世代への農業を通じた心とからだの健康自立支援事業
助成種別：	市民活動
団体名：	一般社団法人 SAVE TAKATA
代表者名：	佐々木 信秋
主な活動地域：	岩手県

本団体は、東日本大震災により甚大な被害を被った岩手県陸前高田市及びその周辺の地域復興、市民協力の促進を目的として発足した。

震災から6年以上が経過し、仮設住宅や自宅でひきこもり状態にある中堅世代も多く存在すると言われている。そこで、本プロジェクトでは、本団体が立ち上げたりんご農園での農作業を通じて、ひきこもりの人たちが自立と就労に向けた一歩を踏み出せるような仕組みをつくり、農作業の場が彼等の「居場所」や「コミュニティ」となるようにする。また、地元のりんご農家を手伝うことによって、高齢化により人手不足に悩むりんご農家の助けにもなる。

本団体が自ら立ち上げた社会資源やビジネス的手法を取り入れた持続可能な仕組みを活用して、社会福祉協議会や行政と連携しながら、地域の課題にチャレンジしようとする姿勢が評価された。

プロジェクト名：	中堅世代の加害者家族の支援モデルの構築
助成種別：	市民活動・市民研究
団体名：	特定非営利活動法人 World Open Heart
代表者名：	阿部 恭子
主な活動地域：	宮城県

加害者家族支援は、欧米諸国では発展しているものの、日本ではいまだ十分に取組みられておらず、支援団体も本団体および特定非営利活動法人スキマサポートセンターの二つを数えるのみである。本プロジェクトは、この二団体が協力し、支援の手が届き難い中堅世代の加害者家族に焦点を当てた取組みである点が評価された。

具体的には、加害者家族と支援団体をつなぐホットラインを設置し、家族会の運営を中心とした加害者家族支援を柱とする市民活動であると同時に、事件発生直後から社会復帰までの加害者の経過を記録し、中堅世代特有のニーズを明らかにして支援モデルを構築するという、市民研究の側面を持ったプロジェクトとなっている。

上記の実践と研究をもとに、ケーススタディを中心とした書籍の出版や、二大都市（東京、大阪）における政策提言シンポジウムを企画するなど、社会的な影響力をもつ活動であることが評価された。本プロジェクトの成果が社会に広く周知され、加害者家族への公的支援が議論される契機となることを期待したい。

プロジェクト名： 中堅世代のひきこもりの人々が気楽に集まるソーシャルカフェ～「35 カフェ」
助 成 種 別： 市民活動
団 体 名： 特定非営利活動法人 光希屋（家）
代 表 者 名： ヨン・ロザリン
主な活動地域： 秋田県

本団体は、2013 年 11 月にひきこもり当事者の居場所として「ふらっと」を開設し、お話し会や勉強会などの交流を通じて、当事者同士やスタッフとのコミュニケーションを図ってきた。

本プロジェクトでは、今まで「ふらっと」を利用して社会とのつながりが持てるようになったひきこもり当事者の自立支援を展開するため、30 代から 50 代のひきこもり当事者が気楽に利用できる「35 カフェ」を開設し、当事者がその運営を担う。

潜在的なひきこもり当事者が、お茶を飲み、ランチを食べに立ち寄る「カフェ」とすることで、近所の人にひきこもりと認識されにくい配慮をしている。すべての人が顔見知りという小さなコミュニティならではの問題に対応したプログラムとなっており、大都市ではない地域におけるひきこもり当事者の自立支援のモデルケースになるよう期待したい。

プロジェクト名： 若者支援団体で活動する中堅支援者への支援
助 成 種 別： 市民活動・市民研究
団 体 名： 一般社団法人 若者協同実践全国フォーラム（JYC フォーラム）
代 表 者 名： 太田 政男
主な活動地域： 全国

本団体は、ひきこもりなど社会から孤立する若者の支援に関わる人々が、支援のあり方などについて議論し合える場づくりを目指した全国組織である。近年、多様な若者支援事業が行なわれるようになったが、単年度契約の委託事業が多く、運営は不安定な状態にあり、支援現場に関わるスタッフの活動環境は厳しい。

本プロジェクトでは、組織や事業を引っ張る中堅支援者たちの深刻化する疲弊状況を改善するため、実践上の葛藤やストレス、困りごとなどを語り合い共有する合宿型の交流プログラムを開発し、その普及を目指す。選考委員会では、若者支援の現場を安定的に継続させていく試みとして評価した。

実施メンバーには研究者も加わり、プログラムの分析と検証にも取り組むが、プログラムの効用・設定・運用方法をまとめ、他分野で同様の悩みをもつ活動団体も含み、全国でノウハウが共有されることを期待したい。

プロジェクト名： 中高齢のろう者にこころのかがやきを
助成種別： 市民活動
団体名： 特定非営利活動法人 サイレント JAPAN
代表者名： 古海 幸子
主な活動地域： 全国

中高齢のろう者は、学生時代に十分な教育を受けられず、学年不相応の授業を受けざるを得ない状況にあるなどの理由から、文章の読解力が低く、聴者とのコミュニケーションに悩み、また、新聞やテレビ字幕などの情報では不十分なため、話題も昔話や経験談などに偏ってしまうという。

本プロジェクトは、中高齢のろう者が情報の内容を誤解なく十分キャッチするための、目で見ると手話新聞（動画版）を作り上げることを目指す。中高齢のろう者向けの情報発信ツールを開発し、言葉や読解の壁を取り除くことによって、孤独な環境を解消するという取り組みは重要である。

本団体はろう者のみで構成されており、プロジェクトを推進する上での負担は大きいかもしれないが、まずは実験的に取り組むことを応援したい。言葉の意味や読解力不足を補う手話動画版の新聞は、「見たい」、「知りたい」情報を検索可能にする。これらを将来的にアーカイブ化することで、より多くの中高齢のろう者に情報が届けられるよう期待したい。

プロジェクト名： 中堅世代の病と生活困難者への自立に向けた寄り添い型支援
助成種別： 市民活動
団体名： 特定非営利活動法人 NPO ホットライン信州
代表者名： 村上 晃
主な活動地域： 長野県

本団体は、生活困窮者や母子家庭を対象として、無料電話相談、面談・同行支援、食料支援、早期就職支援、居場所づくりなどに取り組んできた。

本プロジェクトでは、困窮する家族が増加し続けている現況や、働き盛りの中堅世代で精神疾患を患う人たちの孤立に注目し、面談・同行支援を中心に支援を展開する。さらに、これらの支援をもとに、地域の社会資源を発掘し、地域福祉ネットワークづくりを目指す。選考委員会では、中堅世代の課題に合わせて活動が再編成されている点、プロジェクトの実現に向けて多様な実践メンバーで構成されている点が評価された。

本プロジェクトを通じて、生活困窮者自立支援制度が補えない点を明らかにしつつ、民間独自の役割、民間と行政との協働のあり方を見出し、政策提言へとつながることを期待したい。

プロジェクト名：	孤立する難民と地域社会の市民をつなぐ関係構築プロジェクト
助成種別：	市民活動・市民研究
団体名：	特定非営利活動法人 名古屋難民支援室
代表者名：	名嶋 聡郎
主な活動地域：	愛知県

日本に逃れてくる難民は年々増加している。難民認定申請者は地域で孤立しがちであり、心身の健康を損ねる者も少なくないという。本団体は、地域に在住する難民に対し法的支援、生活支援などを行ってきた。本プロジェクトでは難民と地域社会とのつながりを支援するため、東海地域の外国人コミュニティの訪問調査、難民向け日本語教室の運営に関する調査、市民向け難民理解講座の開催、難民による料理教室の開催などを計画している。

政府の支援や難民が自立するスキームが整っていない現状において、市民の理解を促進し、難民と地域社会を統合していく取り組みは重要である。特に料理教室の開催は、元々問題意識をもっている人に限らず、広く市民の難民に対するバリアを解消することにつながると考えられる。

市民と難民双方向のコミュニケーションを実現し、難民自らが持つ力を発揮して、地域社会に自分たちの言葉や文化を発信することにより自己肯定感を高め、自立に向けた力を付けていくという目標が達成されることを期待したい。

継続助成の選考経過と助成の特徴

継続助成 選考委員長 稲 沢 公 一

■はじめに

昨年度に引き続き継続助成の選考委員長を務めさせていただきました。

今年度は、昨年度（15件）より4件応募が少なくなりましたが、継続助成の対象となるプロジェクトは、新規助成の選考をすでに通過してきた先駆的かつ独創的なレベルの高い内容を含んでいます。そのため、選考委員会におきましては、さまざまな角度からの意見を調整する必要がありました。まず、選考の経過は、次の通りです。

■選考経過と結果

継続助成の選考は、以下の日程および手続きにより実施されました。

- ・ 応募期間： 7月24日（月）～31日（月）
- ・ 応募総数： 11件（継続2年目6件、継続3年目5件）
- ・ 書類選考： 8月4日（金）～8月28日（月）
- ・ 選考委員会： 9月3日（日）（応募11団体によるプレゼンテーション実施）
- ・ 選考結果： 助成件数7件（継続2年目5件、継続3年目2件）

助成総額 1,500万円

* 上記プロセスと並行して、ファイザー社内担当部署による、医薬品業界・社会規定および関係法規に基づくコンプライアンス確認作業を実施しました。

■助成プロジェクトの特徴

選考において採択されたプロジェクトの特徴としては、以下のようなことがあげられます。

①助成の不可欠さ

いずれのプロジェクトも、新規助成の選考を通過しており、その先駆性や独創性については、問題のないものばかりです。また、社会的に見れば、企業や各種団体による、そうしたプロジェクトへの助成も少なくはありません。そんな中、ファイザープログラムでなければ助成がなされないのではないかと思われるプロジェクトには、出来る限りの応援をさせていただきたいと考えました。

逆にいうと、プロジェクトそのものには重要な意義が認められるとしても、たとえば地域に根差した活動であって、本来であれば自治体や社会福祉協議会からの支援や連携が期待できるのではないかと判断できるようなもの、あるいは、団体の予算規模が大きい場合や公的な制度の活用も可能ではないかと判断されたもの、さらには、レベルが高くて、収益を上げるほどの市場性を有しているのではないかと判断されたものなどには、残念ながら不採択とさせていただいたものがいくつかありました。

限られた予算の中での助成になりますから、決してプロジェクトの内容に問題があるとの判断ではなく、他の助成団体からの支援は難しく、ファイザープログラムでの支援がなければ活動の継続が立ち行かなくなると思われるようなプロジェクトを優先させていただいたということです。

②当事者性

今回の選考では、「当事者」というキーワードが多く委員から出されました。これは、必ずしも当事者が主体的に活動しているプロジェクトに限定するという意味ではなく、「当事者の自発性を生み出す」「当事者の視点に立って」「当事者の自立につながる」など、当事者の方々がただ支援される側に位置づけられるのではなく、支援する側にもまわっていきことや自分たちで自主的に活動していくことを見据えた支援が行われていると判断されたプロジェクトには高い評価がなされたということです。

逆に、当事者ご本人による主体的な活動であっても、一方向的で周囲との連携が見えてこなかったり、当事者支援に不足している視点が不明瞭であったりした場合には、評価を下げざるをえなかったということもありました。支援は、期限付きのものに過ぎないので、その後を見通していることが伝わってくると評価が高くなります。

③新規性と継続性

継続助成の対象プロジェクトは、1年もしくは2年近くにおよぶ活動がすでに展開されています。このことを踏まえつつ、選考委員会では、二つの判断が行われました。

一つは、助成を継続することによって、新たに何をしようとしているのかということの見極めです。すなわち新規性ともいえることで、これまでの活動をそのまま継続していくのではなく、それを発展させて、何か新たな取り組みを始めたいという意欲が伝わってくる場合には、高い評価がなされました。逆に新規性が見えてこない、「何がしたいのかわからない」などの厳しい指摘も行われました。

ところが、では、必ず新規事業に取り組まなければならないのかということ、そういうわけでもありませんでした。今回、採択はされたものの、助成金額が大幅に減額されたプロジェクトがいくつかあります。その中には、新たな取り組みを提案されていたプロジェクトもありました。しかし、選考委員会での議論は、これまでの活動の重要性が理解できるからこそ、早急に新たな取り組みに着手するよりは、現状を充実させていくことに焦点を絞った方がよいのではないかというものでした。

結果的に、応募金額でそのまま採択されたプロジェクトの選考には、それほど時間がかかりませんでした。また、「①助成の不可欠さ」で指摘したように、活動内容の問題ではなく、他からの支援や収益性が期待できるために今回は見送って不採択とする選考も、ある意味スムーズでした。

その上で、残された予算の枠を見据えながら、採択を見送るのか、今回不採択でも次年度応募が可能なのか、減額してでも採択するのか、その場合はどれほど減額するのかなどといった議論が重ねられて、今回の選考結果となりました。

私たちは、自分たちの判断が「正しい」とは、もちろん考えてはおりません。大切な何かを見逃したのではないか、聴き洩らしたのではないか、あるいは勘違いしたのではないかとの思いを払拭することはどうしてもできません。しかし、だからこそ、採択された団体の皆様には、今後ますますのご活躍を祈念するばかりです。

一人でも多くの方たちの笑顔が見えることを心より期待しております。

継続助成対象プロジェクトの概要と選考委員会推薦理由

【助成2年目】

プロジェクト名：	生活困窮者を中心とした健康改善及び中間的就労事業
助成種別：	市民活動
団体名：	特定非営利活動法人 仙台夜まわりグループ
代表者名：	今井 誠二
主な活動地域：	宮城県

本団体は仙台市内のホームレスや生活困窮者を支援している。その中で、健康管理と適切な治療を含む公的なセーフティネットへのつなががないため、生活習慣病等に罹患し、重篤な疾病状態に陥ってしまう当事者の実態を掴んできた。

そこで、助成1年目は中堅世代の独居者50人を対象に、居宅訪問、生活調査、健康調査、病院同行を行なうとともに、ホームレス30人を対象に健康セミナー等を実施してきた。助成2年目はこれらを継続し、さらに路上生活からアパート生活に移行した障がい者による清掃事業（中間的就労）を加えることを計画している。

医療機関との連携や制度によってカバーできる部分もあると考えられるが、生活困窮者の健康問題の解決をはじめとした生活支援活動を担保する制度がない。追跡調査や支援内容の分析を深めることで、生活困窮者のニーズや支援効果を明らかにし、行政や関係機関に働きかけていくことを期待したい。

プロジェクト名：	埼玉県西部地区における未就学時期の難病児子育て応援プロジェクト
助成種別：	市民活動
団体名：	社会福祉法人 はなみずき会
代表者名：	都築 公子
主な活動地域：	埼玉県

本団体は、埼玉県飯能市で保育園の運営や障がい者の就労支援をしている社会福祉法人であるが、地域の社会貢献事業にも熱心に取り組んでいる。その一つが、公的支援が少ない難病児やその親たちを支える当事者団体ニモカクラブへのサポートである。

助成2年目は、助成1年目に引き続き、①難病児とその親たちを対象としたピアサポート活動、②地域交流活動、③啓発活動、④スタッフ研修、⑤オープン勉強会、⑥難病児を育てる親の就労支援など、難病児とその親が活動に参加しやすい環境づくりと心理社会的サポートに取り組む。

本プロジェクトは、制度事業につながることを見据えた先駆的事业であり、当事者団体へのサポートを通じて、支援が少ない未就学時期の支援を行なう。就労支援の取り組みでは、難病児の保育を実施しながら、保護者は本団体の関連施設で就労体験を積むことを通じて経済的サポートも可能になる仕組みづくりも評価した。

プロジェクト名： デート DV の実態から中堅世代の生きづらさと適切な支援方法を明らかにするための研究
助成種別： 市民活動・市民研究
団体名： 認定特定非営利活動法人 エンパワメントかながわ
代表者名： 阿部 真紀
主な活動地域： 神奈川県

本団体はデート DV に特化した電話相談を実施している。助成 1 年目は電話相談「デート DV110 番」の相談記録を分析し、生きづらさを感じる中堅世代の未婚女性の声を明らかにした。また、これまでの経験と実績を活かした相談シートを作成し、相談スキルの向上を図ってきた。

助成 2 年目は、1 年目に作成した相談シートを用いた電話相談記録の分析に取り組み、その中から最近増加している男性デート DV 被害者の生きづらさにも焦点をあてていく。併せて、相談員のアセスメント力の向上や記録の書き方研修、実践に添った相談シートの改訂に取り組み、利用者に、より適切な支援が提供されるよう体制を構築する。

継続的な電話相談記録の蓄積と分析は大変重要な活動で評価できる。これまでの取り組みを通じて、全国の関係団体とのネットワーク強化も見られており、更なる関係者の巻き込みに向けた取り組みにも期待したい。

プロジェクト名： DV 被害等による生きづらさを抱えた女性のための居場所づくり事業
助成種別： 市民活動・市民研究
団体名： 認定特定非営利活動法人 女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ
代表者名： 正井 禮子
主な活動地域： 兵庫県

本団体は、DV 被害や虐待など危機的な状況に陥っている女性に緊急避難場所を提供するシェルター事業や、暴力のただ中にあり、将来への展望を抱くことすらできない女性に対する相談事業を行ってきた。

生きづらさを抱えた中堅世代のシングル女性は、社会的孤立を深める現状があり、子育てや仕事等の悩みを抱えていても誰にも相談できず心身ともに追い詰められるケースも少なくない。

本プロジェクトは、生きづらさを抱えたシングル女性の自立に向けた居場所を継続的に運営するとともに、居場所から自立に向けて歩み出した当事者への聴き取りをもとに効果的な自立支援のあり方を描き出そうとする点に、社会的な意義がある。今後は、調査結果に基づく効果的な支援策を示し、社会に提起していくことを期待したい。

プロジェクト名：	ひきこもり援農隊が沖縄コーヒーを創る
助成種別：	市民活動
団体名：	特定非営利活動法人 ウヤギー沖縄
代表者名：	近藤 正隆
主な活動地域：	沖縄県

ひきこもり当事者の平均年齢は33歳を超え、益々高齢化している。特に沖縄は失業率が高い分、就労による社会参加が難しい。そこで、本プロジェクトでは、比較的作業に取り組みやすい沖縄コーヒー栽培による就労機会の提供を試みた。助成1年目は4人の当事者に自立傾向がみられ、農家だけでなくホテルや観光業の理解も増し、彼らの受け入れ体制は整いつつある。

助成2年目は、「自分を知らない土地に行きたい」という当事者が多い点に着目し、東京、大阪、広島など全国5カ所で本プロジェクトの参加者を募る。そこから10人の「ひきこもり援農隊」を結成し、コーヒー栽培による「仕事」「居場所」をつくって自立を目指す。

コーヒーは収益性が高く、流通経路ができれば、市場や経営基盤が安定し、当事者の自立や支援者の拡大が期待できる。プロジェクトは緒に就いたばかりであり、実施内容を精査しながら展開していくことを期待したい。

【助成3年目】

プロジェクト名：	セクシュアル・マイノリティの中堅世代困難層に向けた HIV 検査同行とサポート
助成種別：	市民活動
団体名：	クライシスサポートセンター nolb
代表者名：	濱中 洋平
主な活動地域：	東京都

中堅世代のセクシュアル・マイノリティは重複的な困難さを抱え、当事者はなかなか声を上げることが出来ない。特に未だに偏見が根強い HIV に罹患している可能性があるという状況に対しては、当事者がさまざまな困難を抱え込まざるを得ないことは想像に難くない。

本団体は、このような不安や葛藤に対して、同じセクシュアル・マイノリティ当事者の相談員だからこそその気づきや共感、具体的なニーズへの理解をベースにしたサポートで着実に成果を積み上げてきた。助成3年目は、新しい事業を展開させるというよりは、前年度までで見てきた課題について、しっかりと当事者に寄り添いながら支え続けることを柱としている。

プロジェクトの性質上、収益を得る自主事業への展開には困難が予測されるため、本助成を通じて、行政や他団体との連携などにより持続的な活動にしていくための基盤が整備されることを期待したい。

プロジェクト名：	障がい児とその家族を支えるための「家族の再生」プロジェクト
助成種別：	市民活動
団体名：	特定非営利活動法人 文化・福祉・人権サポート アエソン
代表者名：	政本 和子
主な活動地域：	兵庫県

本団体は、地域の人々が健やかに暮らすことができるよう、文化・福祉・人権がリンクしたまちづくりを目指し、障がいのある人や家族の相談支援や地域活動支援を行なっている。障がいのある子どもを持つ当事者家族が集う場として交流会や個別相談会、支援者のための講座を展開しており、家族と支援者のニーズに寄り添い、柔軟な運営を継続している。

助成最終年となる今年度は、障がいのある子どもの母親を運営のコアメンバーとして、子育てスキルを学ぶ講座を開講し、ピアメンターとして育成・派遣する。また、子育て情報や子育てスキルをまとめた「子育て Q&A」ガイドブックを作成し、一人で悩んでいる母親への情報提供につなげる。

選考委員会では、支援者のエンパワメント支援を継続しながら、母親のエンパワメント支援にも注力している点が高く評価された。今後も現場に寄り添った丁寧な活動を期待したい。